

教えるから 共に学ぶへ ⑩-Ⅰ

R 7.10.31
R7.10.22 (水) の2年生国語の
授業レポート
今治市立菊間中学校
中尾 真衣

菊間中学校では、グランドデザインに示したように「学び合い」「聴き合い」「探究的な学習」をキーワードに授業改善を進めています。その第10弾として、中尾が2年1組で研究授業をしましたので、その様子をお知らせします。

B課題；学力の基盤(base)となる課題

A課題；探究活動(advanced)を導く課題

◇ 授業の流れ

目標 物語の結末の謎について話し合う

1 星新一「友情の杯」を読み、謎を把握する（B課題）

ショートショートなので、5分で読める小説です。ストーリーは以下の通りです。

主人公の老人は、大きな製薬会社の会長だが、病室で自分の死が近いことを知っている。そばにいる看護師に、最後のたのみとして入院するときに持ってきた古い洋酒を一口飲みたいと言う。その酒を飲みながら、自分の半生を語り出した。彼には、入社当時から出世を競ってきたライバルがいた。才能の上では、そのライバルの方が上であったが、最終的に会社の創立者の娘と結婚した老人に軍配が上がった。ライバルは、結婚の祝いに洋酒をくれ、その後もよき部下として老人に付き従い、老人よりも先に天寿を全うした。老人は、酒に毒が入っている可能性を疑いながらも、今この時まで確かめようとしなかった。

酒を飲み終わった後老人は苦しみはじめ、とうとう亡くなってしまった。しかしそれが、毒のためか、酒の発作によるのか、または謎の解答にショックを受けたことによるのか、……看護師には分からずじまいだった。

2 酒に毒が入っていたかどうかディスカッションする（A課題）

- (1) 毒が「入っていた」、「入っていなかった」それぞれ意見の同じグループ内で、そのように考えた理由を話し合う。
- (2) 「入っていた」、「入っていなかった」それぞれのグループの代表者が意見を交換し合う。

13人中9人が「毒は入っていた」と考えていました。そう考えた理由は主に以下の通りです。

- ・ 死の直前の複雑な表情は、毒が入っていて悲しんでいたのだと考えました。
- ・ 洋酒を渡したあとライバルの青年の態度が急変したので、毒を入れた罪悪感か

らだと考えました。

- ・ ライバルの青年は、創立者の娘を奪われたことが悔しくてたまらず、殺そうと考えたのだと思う。
 - ・ 二人の友情はウソのものだったから。
- 対して、「毒は入っていなかった」という3人の意見は以下のようなものでした。
- ・ ライバルの青年とはずっと友人だったので、老人のただの思い込みだと思う。
 - ・ 毒が入っていたら味でわかるから飲むのをやめるはずなのに、飲み干したから。

◇ 授業者の感想

自由に想像してよい、どれだけ読み込んでも正解のない問いでした。単純に、友人の物語の解釈を聞くことを楽しみ、逆に友人を説得するための根拠を探すために繰り返し本文を読むことができれば授業は成功でした。このような授業を通して、自ら目的をもって本や文章を読むようになってくれればうれしいです。読む目的——、それはワクワクやハラハラを感じることもよいですし、謎や疑問を解決すること、他人の考えを知ること、自分と同じ考えの人を探すこと、その他なんでも構いません。読めば何か分かったり、逆に知らないことの多さに気付いたり、異なる考えに出会ったりできるという体験を積み重ねていってほしいと願っています。

これからも、教科書掲載の文章だけではなく、読んだことについて「話したい」「聞いてみたい」「もっと考えたい」と感じてもらえるような文章を紹介していきたいと考えています。

◇ 保護者の皆様へ

ストーリーの紹介を読んで、みなさんならどうお考えになりますか。もし、本文を読んだことがあるのであれば、ぜひお子様と意見の交換をしてみてください。読んだことがなければ、お子様にストーリーの詳細を聞いてみてください。そこで話したこと、ご自身でお考えになったこと、または、このような授業の題材におすすめの本や文章の提案でも何でも構わないので、ぜひ、以下の感想用紙にご意見をいただければと思います。今後とも、菊間中学校の授業改善へのご協力をよろしくお願いいたします。

----- 切り取り線 -----

「教えるから共に学ぶへ⑩—1」への感想文
